

建設委員会 委員会視察報告

令和7年11月7日

委員長 道場ひでのり

視察行程 令和7年10月22日から同月24日まで

10月22日 大阪府岸和田市

空き家対策について

10月23日 兵庫県姫路市

手柄山平和公園「みんなのさくら広場」（インクルーシブ公園）について

兵庫県神戸市

みちづくり計画事業について

10月24日 兵庫県西宮市

本庁舎周辺ウォークアブル推進事業について

視察者 委員長 道場ひでのり

副委員長 三島杉子

委員 きくち由美子、深田貴美子、宮代一利、菅 源太郎

建設委員会（令和7年10月22日から同月24日まで）

日 時	令和7年10月22日（水曜日） 午後2時から午後3時30分まで
視察先	大阪府岸和田市
テーマ	空き家対策について
目 的	昨今問題が顕著化している空き家対策について事例を学び、参考にする。
内 容	<p>【空家総合戦略・岸和田】</p> <p>岸和田市は古くは城下町として発展し市政も令和4年に100周年を迎えている。</p> <p>しかしながら都市人口は平成17年をピーク（20.1万人）に、以降減少に転じ令和7年10月時点で18.6万人となっている（人口微増という特異な体質を持つ当市とは状況は異にする）。</p> <p>岸和田市では、平成30年4月に「岸和田市空家等対策計画」を策定し、行政や民間団体・事業者及び地域住民等が連携して、住宅等の適正な管理や空家等の利活用、特定空家等の解消に向けた取組を実施してきた。</p> <p>令和4年度に当該計画の期間が終了したため、これまでの成果と直近の岸和田市の実態を踏まえ、引き続き計画的かつ効果的に取組を進めるため、令和5年度からの空家対策計画「空家総合戦略・岸和田」を策定した。令和5年12月に改正された空家等対策の推進に関する特別措置法が施行されたことに伴い、計画を一部改訂している。</p> <p>【どの自治体も抱える問題は同じ】</p> <p>相続の複雑化、権利者の疎遠化が進行し放置家屋（空き家）が増加、また適切な管理が行われていないため、結果、近隣近接に様々な障害を発生させている。その中、相続権利者の捜索にも大変な手間がかかり、また見付かっても適切な処理が進みにくい（相続権利者の相続意識の希薄さ）。</p> <p>【戦略方針】</p> <ol style="list-style-type: none">① 予防・発生抑制の促進② 適正な管理の促進③ 除却の促進と特定空家等への対応→重点戦略④ 利活用の促進⑤ 除却後の管理・活用の促進 <p>【総動員】</p> <p>上記戦略推進にあたっては、セミナーの開催、ホームページ、SNS、リーフレットによる啓発、また管理代行制度にはシルバー人材センターの活用、関係団体との連携も行い総動員体制で推進している。</p>
成果（参考になった点）、課題等	<p>・ 岸和田市の基幹であった繊維産業が衰退し街の活性源が失われ人口減少が進んだという環境（これは当市とは背景が異なる）。</p> <p>・ 適切な調査を進めその結果を基に問題解決への戦略を進めていること。</p>



建設委員会（令和7年10月22日から同月24日まで）

日 時	令和7年10月23日（木曜日） 午前9時30分から午前11時まで
視察先	兵庫県姫路市
テーマ	手柄山平和公園「みんなのさくら広場」（インクルーシブ公園）について
目 的	当市でも推進中のインクルーシブ公園の推進事例を学び、参考にする。
内 容	<p>【手柄山平和公園】</p> <p>手柄山平和公園の東側の玄関口となる位置にインクルーシブ公園として整備され、令和6年4月から供用開始。</p> <p>手柄山平和公園は供用開始面積約38.5haと広大な公園敷地であり、その一角に「みんなのさくら広場」（1.4ha）がインクルーシブ公園として設置されている。</p> <p>【インクルーシブ公園】</p> <p>「インクルーシブとは何か」という立ち位置から議会、委員会で議論が進められ、特別支援学級、近隣小学校にヒアリングを行い、また保護者等にも調査、ヒアリングを行っている。結果として、大変バランスの整った公園運営がなされている。</p> <p>内容としては、インクルーシブ複合・単体遊具、休憩所、バリアフリートイレ（3棟、5千万円）、併設駐車場等も設置され実用的なものとなっている。</p> <p>またインクルーシブの観点から、障害のある児童との心配されることへの配慮が行き届いている。</p> <p>【現地視察にて】</p> <p>現地視察当日は天候にも恵まれ、お昼前の僅かな視察中（約30分）にも多くの来園者があった。</p> <p>子ども連れの家族（10組程度）、小学生による遠足（約50名）、障害児学級の遠足（約50名）と、公園の目的をしっかりと裏付ける風景が見られた。</p>
成果（参考になった点）、課題等	<ul style="list-style-type: none">公園自体の在り方を十分に議論し合意形成がなされている。そもそも「インクルーシブとは何か」という着目が伺え、結果として整ったものとなっている。インクルーシブ（ユニバーサル）遊具、バリアフリートイレは無論、休憩所、また併設された余裕のある駐車場等、サービスの提供に一貫性がある。単に設置するだけの公園とは異なり、創る者の強い「意思・意欲」が感じられた。「みんなのさくら広場」現地視察の際多くの利用者でにぎわっていたのは、その目的が達成されているという印象を強く感じる事ができた。



建設委員会（令和7年10月22日から同月24日まで）

日 時	令和7年10月23日（木曜日） 午後2時30分から午後4時まで
視察先	兵庫県神戸市
テーマ	みちづくり計画事業について
目 的	駅界わいの在り方を考えるにあたり、KOBEPARKレットの事例を学び、参考にする。
内 容	<p>【みちづくり計画】</p> <p>神戸市にはみちづくりの指針として「活かす」、「つなぐ」そして「守る」という三本柱が存在。 「活かす」→みちを活かし暮らしを豊かにする。 「つなぐ」→地域をつなぎ経済を支える。 「守る」→災害に備える・環境に配慮する。</p> <p>※みちづくり懇談会(学識者、公募市民、商業関係者等)を平成17年～令和5年に定期開催</p> <p>【CASEへの対応】</p> <p>C Connected, A Autonomous, S Shared & Services, E Electric への対応等も鑑み、新たな時代に向けた道路の取組にも着手。</p> <p>【KOBEPARKレット】</p> <ul style="list-style-type: none">・都心の新たな憩いやにぎわいの創出、誰でも自由に利用できる空間づくり。・民間主導のまちづくり、協議会、大学、民学官の連携・協力する体制で推進。 コロナ以前からの実証実験・効果検証を行い、「コロナ占用特例」の活用、ほこみち制度の活用へ。・パークレット発祥の地、「サンフランシスコ」に学び整備。 <p>【バスタ化計画】</p> <p>三宮周辺にはバスの発着場が多くかつ点在しており、それらの利便性を高めるため集約する計画が進められている。三宮周辺のバス発着数はおおよそ1,600便/日とのこと。</p>  
成果（参考になった点）、課題等	<ul style="list-style-type: none">・しっかりとした指針（みちづくりの指針）を持ち道路行政を進めていることの重要性。・導入するプロジェクト（パークレット）においても、研究、実証実験、また効果検証が行われていること。・バスターミナルの集約化（バスタ化計画）は、当市吉祥寺地区の再整備の参考ともなる。・ちょうど市長選挙期間であり、現職の施策への審判を仰ぐタイミングとなっていた（現職当選）。

建設委員会（令和7年10月22日から同月24日まで）

日時	令和7年10月24日（金曜日） 午前10時から午前11時30分まで						
視察先	兵庫県西宮市						
テーマ	本庁舎周辺ウォーカブル推進事業について						
目的	ウォーカブル推進事例を学び、当市の推進への参考にする。						
内容	<p>【目標年次 2050年】</p> <p>阪神西宮駅北東地域の本庁舎周辺再整備は、目標年次 2050年とかなり長いスパンを持って計画が構想されている。</p> <p>計画構想における着目点として、</p> <ul style="list-style-type: none">・公共施設の集約・複合化・同種の施設を統合・文化芸術施設の機能向上・将来の建て替えを考慮した事業手法の選択・資産の有効活用による財政負担の軽減 <p>があり、これらを反映し公共施設の配置は右図のように構想されている。</p> <p>【ウォーカブルなまちなか】</p> <p>この再整備構想のなか、「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」からの提言もあり、令和2年に「まちなかウォーカブル推進事業」が創設される。本庁舎周辺再整備ビジョンも踏まえ、ウォーカブルなまちなかづくりを推進するに至った。「居心地が良い」まちなかの形成を目指し、「多世代が集う市民の杜」を2050年に向けた将来ビジョンとして設定。</p> <p>【ロードマップ】</p> <p>当面の取組内容（5次総後期）として、ウォーカブル推進事業及び企業版ふるさと納税制度等を活用予定している。</p> <div data-bbox="746 584 1442 1200"></div> <table border="1"><tr><td>現在：STEP 0</td><td><p>自動車・自転車が多く、移動が中心の道路空間</p></td></tr><tr><td>STEP 1, STEP 2</td><td><p>街路等を利用した試行等 段階的な日常化</p><p>※ウォーカブル推進事業（補助事業）及び企業版ふるさと納税制度等を活用予定 当面の取組内容（5次総後期）</p></td></tr><tr><td>STEP 3</td><td><p>人が中心となった 居心地の良い街路空間</p><p>新本庁舎建設時のイメージ</p></td></tr></table> <p>（上記3図は、西宮市ホームページより）</p>	現在：STEP 0	<p>自動車・自転車が多く、移動が中心の道路空間</p>	STEP 1, STEP 2	<p>街路等を利用した試行等 段階的な日常化</p> <p>※ウォーカブル推進事業（補助事業）及び企業版ふるさと納税制度等を活用予定 当面の取組内容（5次総後期）</p>	STEP 3	<p>人が中心となった 居心地の良い街路空間</p> <p>新本庁舎建設時のイメージ</p>
現在：STEP 0	<p>自動車・自転車が多く、移動が中心の道路空間</p>						
STEP 1, STEP 2	<p>街路等を利用した試行等 段階的な日常化</p> <p>※ウォーカブル推進事業（補助事業）及び企業版ふるさと納税制度等を活用予定 当面の取組内容（5次総後期）</p>						
STEP 3	<p>人が中心となった 居心地の良い街路空間</p> <p>新本庁舎建設時のイメージ</p>						
成果（参考になった点）、課題等	<ul style="list-style-type: none">・率直なところ、ウォーカブル推進事業よりも再整備構想の長期スパン的かつふかんな取組が大変勉強になった（目標年次 2050年）。・また当該域内に寺社があるが、寺社も事業者の一員としてまちづくりが行われていることも参考になった（吉祥寺における寺社）。・事業推進に企業版ふるさと納税制度を有効に活用していること。						